

## 佳作

### 10年後のふるさとへ 宮城県気仙沼市立唐桑中学校 3年 松原 安寿香

中学3年生。ついに受験生になりました。同時に、3年生での総合の探究学習も本格的に始まっています。この学習を通し、未来の自分に伝えたいことがあります。

それは「ふるさとを大切にする、誇りに思う」ということです。受験とともに、学校で力を入れているのが総合の探究学習。3年生では、遠洋マグロ漁船見学、魚市場見学など校外学習が増え、さらに「白福本店」の社長や「気仙沼プラザホテル」の支配人による出前授業など、貴重な経験ができました。

この学習の全体のテーマは「海のまち唐桑を目指して行動する」で、ゴールは「10年後の唐桑の海の提案・提言をする」。私は地域の食の課題を観光につなげるというテーマで学習をしています。進めていくにあたり、ご協力してくださっているのが「まるオフィス」の方々です。行き詰まったとき、相談にのってくださったり、お話を聞きたい人がいると電話をつないでくださったりと、多くのサポートをしていただいています。このような方々がいることで、さまざまな人との出会いがあり、スムーズに学習を進めることができます。

私たちは、アンケートをとり、地域の食の課題を見直してみました。多かったのが「後継者不足」でした。ですが、その中で「松島網」という定置網を行っている社長に聞いてみたところ「発信力の低さ」「体験の少なさ」といった比較的私たち中学生にでも身近な答えが返ってきました。この「発信」という視点なら私たちにも何かできるかもしれない、と感じたのです。地元にいる私たちでも分からない、知らなかった、ということはありません。例えば、魚市場見学に行った時に私を含め水揚げを見たことがなかったという人や、魚のさばき方を知らない、といったことです。海の街で暮らしていても全てを知っているわけではありませんでした。だからこそ、地元を見つめ直し、魅力を再発見することが重要なのだと思います。

「授業でやっているから」と当たり前を考えてしまう自分がありますがこれは間違いで、当たり前ではないのです。先生方、まるオフィスの方々、地域の方々の支え、手助けがあるからこそだと改めて感じています。多くの人々の力を借りている分、私たちもゴールまでしっかり学びをつなげ、提案することが恩返しになるのではないかと思います。方法として、リーフレットや動画にまとめて発信する手段があります。他にも未来のふるさとに自分たちは何ができるか

考え続け、挑戦して行動を起こしていきます。

そして、講話してくださった方々には共通点がありました。それは「地元気仙沼への誇り」です。大切に思っているからこそ利点、改善点どちらも見えてくるのだと思います。私も視野を広げて学習に取り組むだけでなく、日常生活にも生かしていきたいです。

10年後の気仙沼、唐桑は180度私たちの学習で大きく変わるということは難しいかもしれませんが。しかし、何か新しい仕組みや、組織、建物ができるなど、少しでもレベルアップし、発展したより活発な街になっていることを願います。私は、より観光客が増加し、産業の中心の「食」という軸が発展してほしいと願っています。地域に直接関わる仕事に就いていなかったとしても、総合の学習で学んだ「地元を大切に、誇りに思うこと」、また「チャンスを掴み、挑戦すること」を生かして頑張ります。たとえ自分がやっていることの成果が見えなくても、今までご支援してくださった方々のように「誰かのために」と動いていきたいと思います。

未来の自分へ。10年後の気仙沼、唐桑はどうなっていますか。今、何の職業に就いていますか。もっと未来に向けて動いていますか。たくさんの方に支えられて探究学習ができたことに感謝を忘れないでください。この経験が今の自分につながっているのではないのでしょうか。決して諦めないでください。その先には必ず努力をたたえるものが待っています。